

ルーラルツーリズムにおける農村女性の役割

—イタリア南チコロを事例として—

五艘 みどり

本研究は、ルーラルツーリズムが著しく発展するイタリア南チコロを事例に、ルーラルツーリズムにおける農村女性の役割を明らかにする。具体的に、南チコロのルーラルツーリズムで主要な担い手の農村女性が、どのようなネットワークを形成し、あるいは組み込まれ、どのような役割を得てルーラルツーリズムの発展に貢献したのかを、統合型ルーラルツーリズム理論を応用して分析する。本研究は、統合型ルーラルツーリズムという新たな理論の応用、ルーラルツーリズム研究でイタリア南チコロを対象にするという新規性に加え、ルーラルツーリズムにおける農村女性の社会的・経済的環境の変化に注目するものであり、ルーラルツーリズム研究に新たな側面を示す研究として意義があると考えている。

キーワード：統合型ルーラルツーリズム、農村女性、ネットワーク、南チコロ

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

国際競争を背景とした農産物価格の低下と、工業化に伴う農村人口の都市流出は、先進国における農村部の衰退を引き起こした。そこで、農業の補完産業としてルーラルツーリズムを導入する国や地域が増加したが、ルーラルツーリズムの社会的・経済的効果の地域住民への還元が十分でないという議論が起こり、ルーラルツーリズムの望ましいあり方が研究されるようになった (Lane, 1994; Page and Getz, 1997; Oppermann, 1996)。その後、地域住民が主導的に地域内外のコミュニティや組織と連携する内発的観光開発の重要性が指摘されたが、同時に、具体的な運用の難しさも指摘された (Sharpley, 2002)。こうした背景を受けて、Saxena et al. (2007) や Cawley and Gillmor (2008) は統合型ルーラルツーリズム (Integrated Rural Tourism) という新たな概念を提唱し、地域の担い手に関わるネットワークが経済的、社会的、文化的、自然的、人的な資源を結び付けることで地域に多様な利益をもたらすと主張した。一方、農村を人口的側面から維持するには女性の定着のあり方が重要とする議論が生まれ、ルーラル

ツーリズムにおける女性のあり方に触れる研究も生まれた (Wilbur, 2012)。農村女性の社会進出における研究の蓄積も顕著であり (Huges, 1997; Oldrup, 1999; Pini, 2003; 秋津ほか, 2007)、ルーラルツーリズム研究においてこれまで以上に女性の活動に注目した研究がされて良い段階に来ていると考える。

本研究は、ルーラルツーリズムで著しい発展を遂げているイタリア南チコロを事例に、ルーラルツーリズムの発展における農村女性の役割を明らかにする。具体的に、南チコロでルーラルツーリズムの主要な担い手である農村女性が、どのようなネットワークを形成し、あるいは組み込まれ、そこでどのような役割を得てルーラルツーリズムの発展に貢献したのかを、統合型ルーラルツーリズムにおいて最も重要な特徴であるネットワークに注目して分析する。本研究は、統合型ルーラルツーリズムという新しい理論の応用や、南チコロのルーラルツーリズムを対象にするという新規性に加え、ルーラルツーリズムによる農村女性の社会的・経済的環境の変化について考察するものであり、ルーラルツーリズム研究における新たな側面を示す研究として意義があると考えている。南チコロは、イタリアでルーラルツーリズムが著し

く発展するのみでなく、農村女性の社会的地位向上に40年以上の歴史を持ち、最適な研究対象と考えている。

(2) 先行研究と本研究の枠組み

本研究は、統合型ルーラルツーリズムの概念を使用して農村女性を分析することに特徴がある。

Barcus (2013) は統合型ルーラルツーリズムの具体的な7つの特徴を、ネットワーク、規模、内生性、持続性、埋め込み、補完性、エンパワメント、とした。本研究では、Barcus (2013) の7つの特徴を研究の枠組みに応用した(表1)。

また、ネットワークと規模を最も重要な特徴と位置付け、南チロルを県内と集落内に分け、農村女性がルーラルツーリズムを通し、どのようなネットワークを形成し、組み込まれ、その過程でどのような役割の変化が起きたのかを分析した。なお、ネットワーク分析は社会学での研究に蓄積が豊富で(金光, 2018)、ネットワーク内の個人間の繋がりにおける分析も盛んだが、本研究はSaxena et al. (2007)、Barcus (2013) の研究に準拠し、個人間よりも集落や組織間のネットワークの分析を重視する。また、集落の調査対象はサン・ジェネジオ村としたが、これは南チロルの農村で平均的な人口規模であること、最初の観光産業がルーラルツーリズムであることから選定した。

表1 ルーラルツーリズムにおける農村女性に対する分析の視点

特徴	本論における視点
ネットワーク Network	・ネットワークの機能と性質 ・ネットワークの構築過程、関係性
規模 Scale	・県内 ・集落内
内生性 Endogeneity	・地域資源の活用方法 ・人材としての潜在性 ・教育の状況
補完性 Complementarity	・農業と観光における経済力 ・農業と観光における労働力
エンパワメント Empowerment	・個人の価値観および意識の変化 ・集団、組織の社会環境の変化
埋め込み Embeddedness	・社会・文化的背景の関わり ・埋め込みの過程
持続性 Sustainability	・上述の視点を継続する取組の状況 ・取組みと農村女性の関わり

Barcus(2013)より著者作成

(3) 調査の内容

本研究では、国内外の文献調査と、南チロルでの現地調査を実施した。現地調査は、事前調査(2016年3月9日-23日)の後、本調査を5回(①2017年3月9日-19日、②2017年9月5日-19日、③2018年2月1日-28日、④2018年2月19日-27日、⑤2018年11月6日-11日)実施した。本調査は、南チロル農民連合¹⁾、南チロル南チロル農村女性協会、南チロル観光協会、Eurac Research²⁾など組織のインタビューのほか、南チロル農民連合の協力を得て県内の全アグリツーリズム農家の女性ヘインターネット・アンケート調査を行い、2,800軒中333軒から回答を得た。また集落の調査として、サン・ジェネジオの全アグリツーリズム農家の女性ヘインタビューを実施し、18軒中13軒から回答を得た。インタビューおよびアンケート調査の内容は、①農業、②アグリツーリズムの経営、③農村女性の教育や生活、④アグリツーリズム開業後の社会関係と意識の変化とした。

2. 南チロルのルーラルツーリズムと農村女性

(1) ルーラルツーリズムの導入と発展

南チロルは、イタリア最北部に位置する、人口524,256人、基礎自治体(コムーネ)が118の自治県である(ASTAT, 2017)(図1)。



図1 イタリアにおける南チロルの位置
Can Stock photo Inc. (2019)より著者作成

イタリアは15の普通州と5の自治州に分かれ、南チロルが属すトレンティーノ＝アルト・アディジェ州は自治州に該当し、トレント自治県との2自治県から成る。自治州や自治県は、一定分野で独自の立法権を有し、地域で徴収される国税から高い割合の配分を受ける。南チロルは配分率が9割で、高い自治権が確立している。南チロルは1919年にオーストリア領からイタリア領となったが、その後も統治について周辺国に翻弄された歴史から、高い自治意識を持つ。主要言語はドイツ語(62%)・イタリア語(23%)で、農村部はドイツ語が中心である(ASTAT, 2017)。南チロルはドイツ語のAlto Adigeの訳で、現地ではイタリア語のBolzanoより一般的に使用されており、本研究では南チロルを使用する。南チロルは1972年にイタリア自治県となった後、約20年かけて自治を確立させたが、その過程で農業と観光業が強化された。

現在の南チロルは、世界自然遺産にも登録されたドロミテ山塊を中心資源として、ハイキングやスキーを目的とした観光客が年間約700万人訪れている(ASTAT, 2017)。観光産業は、1960年代に登場したが、農村では遠隔地の親戚や知人を宿泊させる農家民宿が登場する程度で、農村人口は都市へ流入し、衰退が懸念され始めていた。南チロルの農村住民は、ドイツ語を言語とする地域の伝統・文化・アイデンティティを継承する重要な住民であると認識されており、都市への流入は問題視されるようになった。そこで、南チロル農民連合と地域のカトリック教会が協力してオーストリアの「農村で休暇を(Ururlaub auf dem Bauernhof)」を紹介し、農家民宿拡大の流れを生んだ(Tommasini, 2013)。その後、イタリアで1985年に国法第730号法(通称アグリツーリズム法)が制定されると、南チロルでは農家民宿の名称をドイツ語のUrurlaub auf dem BauernhofにAgtitourismo(アグリツーリズム)を併記して制度設計を進めた。結果として、南チロルのアグリツーリズムは、農家のみが経営を行う6部屋または10ベッドまでの宿泊施設で、食事は80%以上の地域産品を出し、観光労働日数が農業労働日数を超過せず、開業時には基本講習を85時間受講する、と規定された。1999年、南チロル農

民連合は傘下にルーラルツーリズム推進組織のルーター・ハン(Rooter Hahn)を設立し、農家のアグリツーリズム開業を支援したため、2015年にはアグリツーリズム数が2,798軒、宿泊者数は374,093人と急増した。

(2) 南チロルの農村女性

1970年代までの南チロルの農村社会は、男性が農業の責任を、女性は家事と育児の責任を負った。女性は農業を手伝い、家庭用菜園も含めた庭の管理を行い、自家用の小さな家畜の飼育も行った。農地が山間部にある南チロルでは、耕作、農業資材の移動、灌漑設備の整備全てが重労働であり、男性の負荷が高かった。農業組織や村組織での運営や取引は男性が行い、女性は家内および周辺の仕事に専念したため、男性は外、女性は内という生活形式になっていた。相続では、長男が全農地を継承する慣習があり、農家の主人は土地を所有する男性であり、主人である男性の主張が重要とされた。こうした背景から、南チロルの社会は、男性中心であった。

1960-1970年代には、農業収入が減少し、女性が農閑期に市街で兼業をしたが、母親が外で働く子どもが農業への興味・理解・憧れを失い、将来的に農業を継承せず都市に流入する恐れがあるとして、農村女性の市街での兼業に否定的な意見が増加した。そこで、南チロルが自治権となった1972年以降、主産業の農業を強化する過程で、農村女性の家内の副業を支援し、農村で継続的に暮らせることを支援する組織として、南チロル農村女性協会が設立され、1981年に南チロル農民連合の傘下になった。これにより、農村女性の地位向上が進み、南チロルは国内で早期から社会活動に積極的な農村女性が増加する地域となった。

南チロル農村女性協会の目的は設立当初と変わりはないが、現在はより「農村女性の定着」に焦点を当てた活動をしている。南チロル農村女性協会の活動は、1985年には「農村女性の日」を創設し未亡人を讃えることに始まり、1998年には州議会議員として農村女性を1名、2009年には2名当選させることに成功し、農村女性の社会的発言力を拡大させた。2004年に正式な州の非営利組織として登録されると、活動がさらに活発化し、2007年に「農村での子育て」と題して農村女性

の利用可能な保育施設を設置し、2008年に「農村女性賞」として農村で副業などにおいて最も活躍した女性を年に1回の総会で表彰する制度を設けた(写真1)。2013年には「私達の手から」と題して農村女性のアグリツーリズムや農村をフィールドにしたアクティビティを一覧化してプロモーションを開始した。さらに2014年にアグリツーリズムや農村を拠点にして小学生に農村生活の理解を進める「農場の学校」を開設、2016年には農村男性との婚姻予備軍である若い女性向けに農村女性の生活の理解を進める「農村女性の学校」を開始した。南チロル農村女性協会の加盟者数は15,960名となり、6つの支部と傘下の154グループで形成され、イタリア最大の農村女性組織となっている。

3. 県内ネットワークにおける 農村女性役割の変化

本章では、県内ネットワークにおける農村女性役割の変化を、南チロル農民連合や南チロル農村女性協会など組織へのインタビュー調査と、県内でアグリツーリズム運営に関わる農村女性へのインターネット・アンケート調査から分析して明らかにした。

1980年代後半の南チロルは、農業はBSEや鳥インフルエンザ問題に直面し、農産物の安心・安全に関わる情報発信が課題であった。そこで、農産物の加工や調理に詳しい農村女性が情報発信役

に適役と判断され、南チロルの農村組織の支援を受けて農産物の安全性を発信するメッセンジャーとしなり、見本市などで活躍した。こうして農産物メッセンジャーとしてのネットワークが誕生し、農村女性は活動を通して自信と積極性を育んだ。1990年代中頃には、アグリツーリズムの制度が整い開業が増加し、アグリツーリズムで農村女性が中心となりジャムや果実飲料といった農産物加工品を生産し、ゲストへ土産品として販売を開始した。そして、アグリツーリズム推進組織のルーター・ハン(Rooter Hahn)は、これらの農産物加工品を冊子とウェブサイトで紹介し、アグリツーリズム経営を行わない農家へ生産の推奨を行ったことから、農村女性による農産物加工品生産と販売が盛んになり、生産者女性達の緩やかなネットワークが誕生した。また、アグリツーリズムでは農村らしいアクティビティをゲストに提供することが県法で推奨されており、アグリツーリズム運営農家は地域資源を活用して多様な体験プログラムをゲスト向けに開発し販売した。体験プログラムは、2013年に南チロル農村女性協会が集約し「私達の手から(Aus unserer Hand)」の名で冊子化したため、会員は互いの活動を認識することとなり、地域資源の観光資源化によるネットワークが誕生した。その後、南チロル農村女性協会は、「私達の手から」に、将来的な県内消費者の創出を目指す小学校向けプログラム「農場の学校(Schule am Bauernhof)」を加えた。「農場の学校」の担い手の中心は、当初は農村女性だったが、徐々に家族を巻き込み、担い手は夫や子ども世代へ拡大した。さらに、アグリツーリズム開業に義務付けられる教育を通し、アグリツーリズム運営者同士のネットワークが誕生した。アンケート調査によれば、南チロルのアグリツーリズムの実質的経営者は87%が女性で、このネットワークの中心も女性となった。これまで集落を超えた農村女性同士の結びつきは、親戚や学生時代の友人などに限られていたが、アグリツーリズム運営により県内の遠隔地同士で経営者間に結びつきが生まれた。また、一部のアグリツーリズムでは、海外ゲストと交流を深め、互いの家を往来する関係に発展するなど、海外ゲストとのネットワークを形成する農家も誕生した。アンケート調



写真1 南チロル農村女性協会の総会の様子
(著者撮影)

査によれば、南チロルのアグリツーリズム農家の収入構成は、観光収入が50%を超える農家が37.8%に及ぶ。さらに、実質的経営者が農村女性であることから、南チロルの農村女性の経済的な存在感が向上したと言える。加えて、県議会に南チロル農村女性協会出身の2名の女性議員が在籍することから、農村女性の政治的な存在感も向上したと言える。

県内で農村女性が関与したネットワークは、農村女性の内生性、補完性、エンパワーメントを示している。特に農産物加工品生産直売のネットワークと地域資源の観光資源化のネットワークは、地域資源の活用という点で農村女性の内生性、農業収入の補填という意味で経済的な補完的を示している。また、次世代への農村教育ネットワークは、労働的な補完性を示し、アグリツーリズム運営の教育によるネットワークや、アグリツーリズム運営者同士のネットワークは、教育の向上という農村女性の内生性と、運営者間の交流による意識の変化というエンパワーメントを示している。そして、農村女性の経済ネットワークにおける存在感は経済的な補完性を、海外ゲストのネットワークは、農村女性の意識の変化という面で、エンパワーメントを示していると考えられる。

4. 集落内ネットワークにおける 農村女性役割の変化

本章では、集落内ネットワークにおける農村女性の役割の変化を、サン・ジェネジオ村における農村女性のインタビュー調査と、県内での農村女性へのインターネット・アンケート調査から分析して明らかにした。

集落内では、南チロルの農村女性は県内よりさらに小さな規模で複数のネットワークを生み出した。アグリツーリズム農家と非アグリツーリズム農家のネットワークは、アグリツーリズム農家がゲストに提供する食事において地域産品の不足食材を調達するために近隣農家を頼ることに始まった。近隣農家も農作物や農作物加工品をアグリツーリズムへ直接販売できる利点から、アグリツーリズムとの結びつきを求めた。このネットワークは、料理の担い手である女性を中心となり、

アグリツーリズムで料理を担う女性を中心であった。

アグリツーリズムとレストランを核としたネットワークは、アグリツーリズムがゲスト向けに始めたレストランを一般客に営業することで、近隣住民がレストランに集うようになり形成されたネットワークである。アグリツーリズムとレストランの開業は、レストランの少ない山間部に、住民や観光客が集う賑わいの場を創出した。そして、ネットワークの中心は、レストランの経営を担う農村女性を中心であった。

アグリツーリズム運営者同士のネットワークは、県内と同様に集落内でも存在し、アグリツーリズムの実質的経営者である女性同士が、集落内で互いを行き来しながら経営の問題を共有し、助言し合うなかから生まれた。また、アグリツーリズム実質的経営者である農村女性は、集落内に存在した観光事業者の代表者により形成される観光業者のネットワークへも参加することとなった。こうして観光業ネットワークにも農村女性が組み込まれていった。さらに、アグリツーリズムの運営者らは、趣味のネットワークも形成した。それは、アグリツーリズム運営で多忙になった結果、健康増進やストレス発散を目的に新たな趣味を開始したり既存の趣味を定期化したりする中で、趣味を共有するようになったためである。ネットワークの中心はアグリツーリズム運営に関わる農村女性であったが、次第に家族、友人、隣人を巻き込んだ。

アグリツーリズム運営は家庭内ネットワークに変化をもたらした。家族間の役割分担では、女性が担ってきた家事・育児の一部を夫、子ども世代、親など同居家族が支援するようになった。夫婦間の業務分担にも変化が生じ、妻はアグリツーリズム運営に多大な時間を費やす一方、夫は家事・育児時間やアグリツーリズムの改修などの時間が増加した。また、アグリツーリズム経営者の子ども世代は、親がアグリツーリズムで働く姿やゲストとの交流を通して育つことで、地域への愛着を深め、将来の職業や居住地選択に影響を与える場合があることもわかった。

農村女性のアグリツーリズム運営への関わりは、既存の農業ネットワーク、教会ネットワーク、

近隣住民ネットワークへも影響を与えた。農業ネットワークは、農業における共同作業や農村の諸問題を話し合うため存在した古いネットワークで、中心は男性で、女性達は非公式の婦人会を形成し情報共有していた。農村女性がアグリツーリズム運営に関与すると、婦人会は観光業者との関わりを深め、農業と観光業のネットワークをつなぐ契機となった。教会ネットワークは、カトリック信者の多い南チロールでは最も権威あるネットワークであった。アグリツーリズムの登場以前、教会は集落住民のための閉鎖的なネットワークだったが、教会中心に行われる華やかな伝統衣装を纏った住民による祭や儀式は、南チロールの農村の伝統文化を象徴するものとして観光客に見られるようになった。見られる側の住民も、南チロールの歴史を発信する契機と捉え、観光客に対して比較的寛容な態度を示した。祭で着る伝統衣装を手作りする農村女性は、観光客の視線を意識して制作に励むようになった。近隣住民ネットワークは、農村女性がアグリツーリズム運営に関わることで多忙になり、家事・育児における支援を近隣住民にこれまで以上に頼るようになったことから、以前より近隣住民との結びつきを強めることで形成された。

集落内で農村女性が関与したネットワークは県内同様に、農村女性の内生性、補完性、エンパワメントを示している。アグリツーリズム農家と非アグリツーリズム農家のネットワークは、農村女性の人材としての内生性、経済的な補完性を示し、レストランを核としたネットワークは、経済的な補完性と、エンパワメントを示している。また、アグリツーリズム運営の教育によるネットワークや、アグリツーリズム運営者同士のネットワークは、農村女性の内生性と、運営者間の交流による意識の変化というエンパワメントを示している。そして、家庭内ネットワークの変化は、労働力の補完性、エンパワメントに影響した。さらに、農業ネットワーク、教会ネットワークへの関与の深化は農村女性の社会参画というエンパワメント、近隣住民ネットワークは労働力の補完性を示していると考えられる。

5. 南チロールのルーラルツーリズムにおける農村女性の役割

Saxena et al. (2007) と Barcus (2013) は、統合型ルーラルツーリズムにおいて、ネットワークを最も重要な特徴と指摘し、加えて Barcus (2013) は、ネットワークには階層的な広がり、結びつきの強弱が存在することを指摘した。これまで南チロールの農村女性が、県内・集落内の規模別に多様なネットワークを形成したことを明らかにしたが、統合型ルーラルツーリズムにおけるネットワークと規模という特徴を十分に説明できたと考える。そこで本章では、農村女性のネットワークの関与にどのような傾向があり、農村女性はどのようにネットワークを拡大させ、その中で役割を変化させていったのか、統合型ルーラルツーリズムの内生性、補完性、エンパワメント、埋め込み、持続性の視点を使用して分析する。

まず、アグリツーリズムを運営する農村女性のネットワーク関与の傾向から、農村女性の内生性、エンパワメント、補完性が示されることがわかった。アグリツーリズムを開業した全ての女性は、いずれかのネットワークに関与することになり、開業後には経済ネットワークに組み込まれ、南チロールでの経済的な存在感を向上させた。そして、複数のネットワークに所属する女性ほど経済効果を上げ、運営に関する教育を熱心に受け、運営者同士の人脈を構築した。また、アグリツーリズムという観光業を通して農業にも貢献し、同時に農村における女性の社会参画も促した。こうしたネットワーク関与の傾向から3点を示すことができる。第1に、農村女性の経済ネットワークへの組み込みは、補完性を示しているということである。著者は Barcus (2013) の補完性を経済と労働に分けて示したが、農村女性の経済的存在感の向上は経済的な補完性に該当する。第2に、アグリツーリズム運営に関する教育のネットワークと、観光業を通じた農業への貢献は、農村女性個人の内生性を示している。著者は Barcus (2013) の研究から、内生性の具体的な内容を農村女性における「地域資源の活用」「人材としての潜在性」「教育の状況」としたが、教育のネットワークは「教育の状況」に含まれる。農村女性への教育はかつ

て家政や農業など限られていたが、農村組織から観光業への新たな教育機会が提供された。観光業を通じた農業への貢献は、地域資源の観光化や次世代教育のプログラム開発を通してなされたが、これは家庭中心の生活を送ってきた農村女性だからこそできた内容と言える。第3に、運営者同士のネットワークは農村個人のエンパワーメント、農村における女性の社会参画は組織のエンパワーメントを示している。著者は、Barcus (2013)の研究をもとに、エンパワーメントを個人あるいは組織の「意識・価値観の変化」「誇りの増加」としたが、このことから「意識・価値観の変化」が説明できる。

次に、ネットワークの拡大における2つの類型区分の分析から、内生性とエンパワーメントという特徴は、ルーラルツーリズムにおける農村女性を分析する上で、重要な特徴であることがわかった。1つ目の類型区分は、県内におけるアグリツーリズム運営のための教育ネットワークを契機としたネットワークの拡大で、開業による教育を受けることで農村女性が刺激を受け、農産物加工品生産や次世代教育のネットワークに広がっていく類型である。この類型は、ネットワークの拡大が県外に広がる傾向を見せた。2つ目の類型区分は、集落内におけるアグリツーリズムとレストランを契機としたネットワークの拡大で、アグリツーリズムのレストランを地元住民にも営業することで、農産物購入のための近隣農家とのネットワークや、住民の集いの場が形成されていく類型である。この類型は、ネットワークが集落内に拡大する傾向を見せた。2つの類型区分では、拡大の規模が異なるものの、ネットワーク拡大の過程において、いずれも内生性とエンパワーメントが強く示されることがわかった。例えば、アグリツーリズムとレストランを契機としたネットワークの拡大では、最初に食材としての生産物購入のためのアグリツーリズムと非アグリツーリズムのネットワークが形成され、「地域資源の活用」という内生性を示すが、レストラン経営が軌道に乗るとアグリツーリズム運営者同士のネットワークへの関与が強まってエンパワーメントが示され、提供される料理やサービスの幅が広がって内生性が再び示される。このように、農村女性が形成したネッ

トワークの拡大では、内生性とエンパワーメントが強く示されるとともに、内生性とエンパワーメントは互いに繋がり強い特徴であると言える。

最後に、ネットワークの広がりから、統合型ルーラルツーリズムの特徴間の関係を分析する。県内では、農村女性が形成あるいは組み込まれたネットワークとして、8ネットワークが確認されたが、いずれも1980年代後半から2000年代へかけて、農業的な領域から観光業的な領域へ広がったことがわかった。県内では、農業的なネットワークは農村女性の内生性を示す傾向にあり、観光業的なネットワークは農村女性のエンパワーメントを示す傾向にあった。一方、集落内では、9つのネットワークが確認されたが、これらのネットワークは1990年代後半に、県内のアグリツーリズム促進の動きに連動して形成された。集落内ネットワークの拡大では、観光業的、農業的ネットワークともにエンパワーメントを示す傾向にあり、新規のネットワークが既存のネットワークと補完性を示しながら結び付くということがわかった。

農村女性のルーラルツーリズムへの関与を通して、統合型ルーラルツーリズムの特徴を見ていく場合、埋め込みと持続性という特徴は、これまでの5つの特徴と扱いが異なると考えられる。まず、埋め込みは、ネットワーク、規模、内生性、エンパワーメント、補完性の5つの特徴がすべて示された後に説明できる特徴と考える。著者は、Barcus (2013)の記述を参考に、埋め込みを具体的に「社会・文化的背景との関わり」とした。県内のネットワークでは、農産物メッセンジャーと地域資源の観光資源化ネットワークには南チロル農村女性協会が、農産物加工品の生産直売ネットワークとアグリツーリズム運営の教育ネットワークにはルーター・ハン (Rooter Hahn) が、ネットワークの活動を支援している。両組織は、南チロルの農村住民の社会的地位向上を目的に、1909年に設立された南チロル農民連合傘下の組織である。南チロル農民連合は、南チロルが1919年にオーストリアからイタリアへ割譲された後、周辺国の統治に翻弄される中で、地域のカトリック教会とともに農村住民に常に寄り添ってきた。また、政治的にも強いパイプを持ち、南チロルの自治権獲得にも大きな貢献をした。南チロ

表2 ネットワークでの農村女性の役割とそれらが示す内生性、補完性、エンパワメント、埋め込み

規模	ネットワーク	農村女性の役割	内生性			補完性		エンパワメント		埋め込み	
			地域資源の活用	人材としての潜在性	教育状況の向上	農業と観光業における経済力	農業と観光業における労働力	個人の価値観・意識の変化/誇りの増加/	集団・組織を取り巻く社会環境の変化		
県内	農産メッセンジャー	・農産物の安心・安全に関する情報発信		家庭内生活経験							
	農産物加工品生産直売	・農産物加工品の生産 ・農産物加工品の観光客への販売	農産物生産			農産物等販売収入			女性の生産/販売の支援	♠♥	
	地域資源の観光資源化	・農家らしい体験アクティビティの開発 ・体験アクティビティの観光客への販売	体験プログラム開発			体験アクティビティ販売収入		地域資源の再認識	体験プログラム宣伝	♠	
	次世代の農村教育	・次世代の県内消費者の育成 ・農業後継者の育成	農場活用による教育プログラム			次世代消費者の育成・創出	次世代農業後継者の育成			♥	
	AT運営のための教育	・アグリツーリズム運営ノウハウの習得 ・アグリツーリズム運営者間の交流			講習会参加			講習会参加期間の研鑽・交流		♠	
	AT運営者同士	・アグリツーリズム運営の情報交換 ・新たな友人の獲得・交流範囲の拡大		コミュニケーション力				AT運営者同士の交流		♠	
	海外ゲスト	・海外の友人の獲得 ・新たな視野の広がり		コミュニケーション力			海外旅行消費	視野の広がり/評価から得る誇り			
	経済ネットワークの存在感	・アグリツーリズムの実質的な経営者					観光収入増加				
	集落内	AT/非AT	・近隣農家からの農産物購入	近隣農家の農産物・農産物加工品			近隣農家の農産物購入		非AT農家の観光業参入意欲		
ATレストラン		・近隣住民が働く場の形成 ・レストランの実質的な経営者		家庭内の料理経験		レストラン収入		経営で得た自信/更なる意欲			
趣味		・新たな趣味の創出・趣味の定期化 ・趣味の友人・家族との共有				趣味費支出		新たな趣味で得る価値観			
AT運営者同士		・集落内のアグリツーリズム運営者間の繋がり		コミュニケーション力				経営者の認識/視野の広がり		♠	
既存観光業者		・新たな社会参画の機会の獲得						AT代表としての参加		◆	
家庭内ネットワーク		経営者としての存在感	・農家における稼ぎ手としての存在感		家庭内の会計管理経験		農家収入増加				
		家族観の役割変化	・経営者としての存在感・家事育児の支援の獲得					家族労働力			
		夫婦間の役割変化	・経営者としての存在感・新たな仕事の獲得					夫の家事育児参加			
		子ども世代への影響	・子ども世代の価値観への影響		家庭内生活経験				地域の愛着心の増大		
農業		・アグリツーリズム協議会への参加 ・農村社会への参画機会の獲得							アグリツーリズム協議会		
教会	・祭・催事使用する伝統衣装の創作意欲等への影響								✦		
近隣住民	・育児家事支援における互助機能への更なる関わり					近隣住民の支援			✦		

(注) ○：現在示している △：将来示すと考えられる ♠：ルーター・ハンが支援
♥：南チロル農村女性協会が支援 ◆：南チロル観光協会が支援 ✦：教会の影響

ルとしてのアイデンティティを持続するため、農村住民が都市へ流出しない施策を継続し、現在、南チロルの農村住民が最も信頼する組織と言える (Tommasini, 2013)。南チロルの農村女性が形成し、組み込まれたネットワークの多くは、南チロル農民連合の支援を受けている。そして、南チロルのルーラルツーリズムにおける社会・文化的背景は、こうした南チロル農民連合の影響と自治意識の強さと言える。このような社会・文化的背景の影響を強く受けながら、農村女性はネットワークを形成し、そこで新たな役割を担うのであり、活動の背景には社会・文化的背景、すなわち埋め込みが示されるのである (表2)。

最後に、持続性は、Barcus (2013) によれば「持続可能な開発の概念と重なる考え方」で「正確な定義を厳密にするのではなく、問題の焦点を議論するための有用」とされ、特徴の内容は概念的である。したがって持続性は、これまでの6つの統合型ルーラルツーリズムの特徴が示された後、全体を通して示すことのできる特徴であると考え

る。南チロルのルーラルツーリズムへの農村女性の関わりや役割からは、ネットワーク、規模、内生性、補完性、エンパワメント、埋め込みを十分に示すことができた。このことから、南チロルのルーラルツーリズムでは統合的ルーラルツーリズムにおける持続性を示すことができたと考えられる。

6. 結論

本研究では、南チロルのルーラルツーリズムは、農村女性が多様なネットワークの形成と組み込みを経て、新たな役割を果たし、統合型ルーラルツーリズムを形成したことを明らかにした。このことは、具体的に次の5点を証明したことから結論付けることができる。第1に、農村女性はルーラルツーリズムへ関わり、県内・集落内という異なる規模において多様なネットワークを形成してきた。そして、ルーラルツーリズムに積極的に関与する農村女性ほど、複数のネットワークに所属することがわかった。第2に、農村女性はアグリツー

リズムの経営、観光客への農産物や体験プログラムの販売などを通して、ルーラルツーリズムの発展に大きく貢献した。第3に、農村女性はネットワークの形成と組み込みを経て、生業である農業に活力を与えた。第4に、農村女性におけるルーラルツーリズムへの関与は、農村女性の既存の価値観や意識を変化させ、時には地域への愛着心を再認識させ、時には次世代の価値観や意識にも影響を与えた。第5に、農村女性のルーラルツーリズムでの活動を支える多様なネットワークは、南チロルの自治意識の高さという社会・文化背景が定着の要になった。

また、本研究から、Barcus (2013) の統合型ルーラルツーリズム理論を応用する上で重要な点を3点指摘できる。第1に、統合型ルーラルツーリズムの視点で南チロルの農村女性を分析した場合、内生性とエンパワーメントが重要な特徴として示され、この2つの特徴は互いに強い結びつきがあるという点である。第2に、社会・文化的背景としての埋め込みが、それらの特徴を生み出す要因になっており、内生性、エンパワーメントに次いで重要な特徴と位置付けられる。第3に、ネットワーク、規模、内生性、補完性、エンパワーメントの5つの特徴の全ての背景には埋め込みが影響しており、埋め込みを合わせた6つの特徴をすべて示した結果として、持続性を示すことができるという点である。

最後に、本研究の調査対象者の多くはルーラルツーリズムの促進に肯定的で、調査結果に偏りが生まれたことは否めない点を指摘しておく。今後は、ルーラルツーリズムの推進に否定的な立場の意見も収集し、ルーラルツーリズムをより広い視野で分析することが重要と考える。■

【注】

- 1) 南チロル農民連合は、農村住民の生活のあらゆる支援を行う目的で1919年に設立された、県最大の農村組織である。自治獲得の時代も農村住民に寄り添って活動してきたため、農村部で最も高い信頼を得ている組織である。
- 2) Eurac Research は、1992年設立の南チロル県の民間シンクタンクであり、運営費の一部は県の補助を受けている。

【参考文献】

- ASTAT (Autonome Provinz Bozen Südtirol) (2017): Statistisches Jahrbuch für Südtirol .
- Barcus, H. (2013): Sustainable development or integrated rural tourism?: Considering the overlap in rural development strategies. *Journal of Rural and Community Development*, 8(3): 127-143.
- Can Stock Photo Inc. (2019): Can Stock Photo. <https://www.canstockphoto.com/>
- Cawley, M. and Gillmor, D. A. (2008): Integrated rural tourism: Concepts and Practice. *Annals of Tourism Research*, 35(2): 316-337.
- Hughes A. (1997): Rurality and 'culture and womanhood': Domestic identities and moral order in village life. Cloke, P. and Little, J., eds. *Contested Countryside Cultures*, Routledge.
- Lane, B. (1994): Sustainable rural tourism strategies: A tool for development and conservation. *Journal of Sustainable Tourism*, 2(1-2): 102-111.
- Oldrup, H. (1999): Women working off the farm: Reconstructing gender identity in Danish agriculture. *Sociologia Ruralis*, 39(3): 109-122.
- Oppermann, M. (1996): Rural tourism in Southern Germany. *Annals of Tourism Research*, 23(1): 86-102.
- Page, S. and Getz, D. (1997): *The Business of Rural Tourism*. International Thomson Publishing.
- Pini, B. (2003): Feminist methodology and rural research: Reflections on a study of an Australian agricultural organisation. *Sociologia Ruralis*, 43(4): 418-433.
- Saxena, G., Clark, G., Oliver, T. and Ilbery, B. (2007): Conceptualizing integrated rural tourism. *Tourism Geographies*, 9(4): 37-41.
- Sharpley (2002): Rural tourism and the challenge of tourism diversification: The case of Cyprus. *Tourism Management*, 23(3): 233-244.
- Tommasini, D. (2013): *Geografia, paesaggio, identità e agriturismo in Alto Adige Südtirol*. Franco Angeli.
- Wilbur, A. M. (2012): *Seeding alternatives: Back-to-the-land migration and alternative agro-food networks in Northern Italy*. Glasgow Thesis Service.
- 秋津元輝・藤井和佐・澁谷美紀・大石和男・柏尾珠紀 (2007): 農村ジェンダー—女性と地域への新しいまなざし。昭和堂。
- 金光淳 (2018): 社会ネットワーク論。京都マネジメント・レビュー, 32: 138-142

Role of Women Farmers in Rural Tourism:

A Case from South Tyrol in Italy

Goso Midori

The purpose of this study is to clarify the role of women farmers in the development of rural tourism based on a case from South Tyrol, Italy. It focuses on the networks formed or incorporated through the involvement of women farmers in rural tourism and analyzes them from the perspective of integrated rural tourism. Integrated rural tourism is a relatively new theory that emphasizes endogenous development and practicality and points out the importance of the connection between stakeholders and economic, social, cultural, natural and human resources through networks. Barcus (2013) described the seven characteristics of network, scale, endogeneity, complementarity, empowerment, embeddedness, and sustainability, and these characteristics were used as an analytical framework in this study. In this study, research was conducted through an online survey in the prefecture and an interview survey in a small village (San Genesio), targeting women managing 'agriturismo' (accommodations run by farmers), as well as an interview survey with agriculture and tourism related organizations.

In terms of networks formed or incorporated by women farmers through rural tourism, eight were found in the prefecture while nine were found in a small village, San Genesio. Through the research, it became clear that (1) women farmers who are actively involved in rural tourism belong to multiple networks, (2) women farmers contributed greatly to the development of rural tourism through managing 'agriturismo' and selling agricultural products and experience programs to tourists, (3) women farmers gave vitality to agriculture, which is their livelihood, through the formation and incorporation of networks, (4) women farmers have changed their values and consciousness through their involvement in rural tourism, which has also influenced the way of thinking of the next generation, (5) the various networks supporting the activities of women farmers in rural tourism have become the cornerstone of the social and cultural background of their high degree of autonomy in South Tyrol. In addition, when analyzing women farmers under the integrated rural tourism theory, three characteristics are evident. First, women farmers engaged in rural tourism have shown endogeneity and empowerment as important characteristics, and these two characteristics are strongly linked to each other. Second, embeddedness as a social and cultural background is a factor that creates these characteristics. Third, embeddedness influences the background of the five characteristics of network, scale, endogeneity, complementarity, and empowerment, and as a result of showing all six characteristics, sustainability could be shown.

In this study, it was clarified that women farmers in South Tyrol played a new role in various networks in rural tourism and formed integrated rural tourism. In addition, this study showed the important points that could be seen when analyzing women farmers using the integrated rural tourism theory. These points are considered to indicate the significance of this study.

Keywords: integrated rural tourism, women farmers, network, agriturismo, South Tyrol, Italy